

宮内 そうこ 議員
（戸田の会）

録画配信

市民が複数の窓口を回らない支援を

Q ひとりの市民が、子育て、介護、病気、就労、生活困窮、家族の問題など、複数の悩みを同時に抱えているときに、ワンストップ窓口で支援できる体制を。

A 重層的支援体制の下、関係機関が連携して支援していく。

意見 一人の市民が複数の問題を同時に抱えることは珍しくない。市民が複数の窓口を回るのではなく、支援する側が連携して、困っている市民をワンストップでサポートしてほしい。

子育て支援サービスのデジタル化を

Q 現在は、サービスの申請のために、紙の申請書を利用施設に持っていったり、電話をかけて予約する必要がある。紙の提出や電話などのアナログな方法ではなく、オンラインで予約できるようにして、保護者の利便性の向上と、現場の業務の効率化を進めてほしい。

A 双方の声をしっかり聞いて進めていく。



オンライン予約で子育てをさらに便利に！



細田 昌孝 議員
（政策 TODA）

録画配信

利用されていないちびっ子プール

Q 1公園当たりのちびっ子プールの稼働日数は。

A 1公園当たり約 12 日間程度である。

意見 1年 365 日のうち1公園当たりで約 12 日間程度しか利用していない。そして、施設は約 50 年以上経過し老朽化が進んでおり、年間維持費もかかっている。利用されていないちびっ子プールは、町会の意向に沿って、解体・撤去を要望する。

生活道路の時速 30㌔規制

Q 令和8年9月1日から改正道路交通法が施行され、生活道路における自動車の法定速度が時速 60㌔から時速 30㌔へ大幅に引き下げられた。蕨警察署との緊密な連携による取り締まり強化は。

A 地域住民が交通事故に巻き込まれないよう、朝・夕の時間帯や、抜け道として利用されやすい生活道路における取り締まり強化を蕨警察署に要請していく。

意見 ①ハード面の整備②デジタル技術の活用③周知・啓発の強化④市自らの実践について要望する。


利用されていないちびっ子プール



佐藤 太信 議員
（戸田の会）

録画配信

感震ブレーカーの設置促進を！

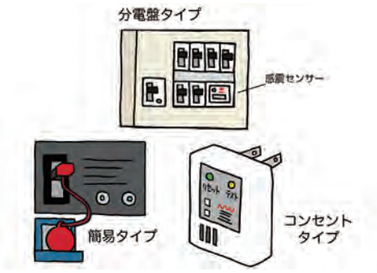
Q 感震ブレーカーは、地震発生時に一定以上の揺れを感知すると自動的に電気を遮断し、地震による電気火災を防ぐために有効な機器である。本市の設置状況の把握や、補助制度を含めた今後の設置促進をどのように進めるのか。

A 首都直下地震が今後 30 年以内に発生する確率は約 70%と予測している。市民意識調査などを活用し、設置実態の把握を検討。また、推奨機種や対象者、設置方法などを整理し、設置促進に向けた検討を加速する。

障害児における 18 歳以降の課題

Q 障害児が 18 歳以降に直面する課題、卒業後の余暇活動の充実に向けた取組は。

A 18 歳以降は、制度やサービスの切り替えへ、卒業後の進路や就労・日中活動の場の確保などが課題である。夕方や休日の居場所や活動についてもアンケート調査を実施しており、その結果を分析し、関係機関との意見交換も踏まえ、支援体制のあり方を検討する。



感震ブレーカー等の普及による効果



小山 大輔 議員
（政策 TODA）

録画配信

地域資源を生かした周遊促進

Q 地域資源を「集める楽しさ」でつなぎ、デジタルスタンプラリーなどにより、市内周遊や地域経済の活性化につなげてはどうか。

A 市民や来訪者が地域を巡り、市の魅力を体験する仕掛けとして有効である。

広場・児童遊園地へのトイレ設置

Q 公衆トイレについて、地域からの要望を踏まえ、今後の改修時などに設置を検討すべきでは。

A 改修や再整備時には、周辺施設などの状況を踏まえトイレの必要性を検討する。

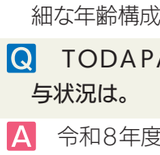
運転手確保策の具体化

Q バス・タクシーの運転手不足に対し、第二種免許取得、就職、定着への支援を含め、実効性ある確保策を具体化すべきでは。

A 本年度から支援策の検討を始めている。就職・定着支援も含め、地域公共交通協議会で議論を重ね、具体化していく。



地域資源を巡る仕掛け



三浦 のぶお 議員
（公明党）

録画配信

車中泊避難の環境整備

Q 災害時、車中泊を選択する避難者を孤立させないため、避難場所や生活環境、電源を平時から整備する考えを伺う。

A 車中泊避難場所の確保に努め、選定した場所は事前に周知する。また、暑さ寒さ対策や環境整備を他自治体の事例も参考に調査する。避難者は物資配給や防犯パトロールなどで把握することを想定している。民間事業者との連携による電源確保についても研究する。

意見 車中泊を推奨するものではないが、実際に選択する避難者を想定し、避難場所、物資、情報、電源などを一体的に確保することが重要である。熊本市などの先進事例を参考に、平時から実効性のある支援体制を構築するよう期待する。



災害時の車中泊避難ステーション



石川 清明 議員
（公明党）

録画配信

TODAPAYの活用促進

Q TODAPAYサポート窓口の利用状況と年齢構成は。

A 第6弾の事業では、合計 503 人の利用があり、詳細な年齢構成は把握していないが、大半は高齢の方。

Q TODAPAYポイントの実施項目とポイントの付与状況は。

A 令和8年度は、節エネスポットの利用者へのポイント付与のほか、SDGsイベントや骨粗しょう症検診、禁煙チャレンジ教室への参加促進、コバトンALKOOマイレージの普及促進など、8つの事業で活用を予定。付与状況は節エネスポットの利用者に対し、延べ11,285 人、225,700 ポイントを付与。

Q TODAPAYの高齢者の登録と利用方法、ポイント付与への今後の取り組みは。

A サポート窓口やコールセンターで登録と利用の支援を行うとともに、庁内各課と連携し、ポイント事業の更なる活用に向けて取り組んでいく。



サポート窓口を開設しています